

## Y8-15

### クラウドコンピューティングによる電子カルテ及び院内情報システム導入の紹介

柏原赤十字病院 電子カルテ委員会<sup>1)</sup>、  
柏原赤十字病院 情報連携WG<sup>2)</sup>  
片山 覚<sup>1,2)</sup>、伴仲 正倫<sup>1,2)</sup>、大垣 和之<sup>1)</sup>、  
浅原 光代<sup>1)</sup>、廣瀬 之衛<sup>1)</sup>、岸 幸子<sup>2)</sup>

【目的】病院情報システムの導入は規模の大きい病院では一般的となっているが、中小病院の電子カルテ普及率は低い。中小病院は地域との連携や病病連携、遠隔医療など情報システムの整備が極めて重要となってきた。救急医療、周産期医療などへの診療報酬の重点配分から、中小病院は経営的にも厳しい状態にあり、システムの導入が進まない現状がある。そこで、費用が安価で院外での使用や地域連携や遠隔医療にも利用可能で、病院が被災してもカルテ情報が確保できるクラウドコンピューティングによる電子カルテと院内情報システムを導入したので報告する。

【方法】平成23年5月から7月までの3ヶ月で、セコム社ユビキタス電子カルテ、画像情報システム(PACS)、Google Apps for businessを導入した。電子カルテでは遠隔医療として放射線科専門医による遠隔画像診断、ノートパソコンによる電子カルテ携帯した訪問看護を導入した。Google Appsで、メール、カレンダー、サイトによる掲示板、ファイル共有、院内動画配信、各種届出、アンケート調査などに使用した。フィルムレス、ペーパーレス、業務の効率化、医師業務軽減や診療支援における効果などにアンケート調査をGoogle Appsを用いて行い導入の効果を検討した。

【成績】導入費用および、アンケート調査による導入効果の評価の結果を報告する。

【結論】クラウドコンピューティングによる電子カルテ、院内情報システムは、安価で中小病院に適しており、災害時でもデータが守られるシステムとして有用と考えられた。

## Y8-16

### 当院における情報セキュリティ対策の構築

広島赤十字・原爆病院 医療情報管理課  
西田 節子<sup>にしだ たかこ</sup>、島川 龍載

【はじめに】IT化の進展に伴い個人情報の重要性は高まり、平成17年の「個人情報の保護に関する法律」の施行後は個人情報を取り扱う事業者には、個人情報の適切な取り扱いが義務付けられることになったが、依然として情報漏洩事件は後を断たない。赤十字本社においても平成21年度にコンプライアンス統括室が設置され、日本赤十字社情報セキュリティ基本方針、基本規定が制定されたが、詳細な運用手順書などは示されていなかったため、当院では平成22年度の病院情報システムの更新に合わせて、情報セキュリティ対策を推進する院内組織の再構築と、リスクアセスメントの結果を基に病院のレベルに合わせたセキュリティポリシーを策定したので報告する。

【方法】データの取り扱いについて、情報セキュリティリスクを明らかにするため、平成22年7月14日～7月30日まで医師を含む各部門でのヒアリングと現地調査を実施した。分析は(1)院外への持ち出し、(2)院内での持ち出し、(3)院外での運搬、(4)院内での運搬、(5)院内での保管、(6)院内での廃棄、(7)私物PC、USBの病院への持込み、(8)外部委託契約の8項目について行った。

【結果】8項目のうち、(1)(5)(7)(8)の4項目がハイリスクであることが確認されたため、これら4項目にかかる手順書を策定し、全職員を対象にしたセキュリティ研修会で説明を行った。USBはセキュリティ機能付きを準備し、医師には個人配布、各部署には必要数を配布し、個人持込みを禁止した。更に医師にはPCを貸与し、PCは医療情報管理課で許可されたもののみ持込みを認めることにした。また、各フロアにシュレッダーを配置した。

【考察】利用者を漏洩事故から守るためには、体制整備と、教育研修が重要であり、セキュリティレベルは段階的に上げることが求められる。今後も様々な取り組みを行っていく予定である。